第５次交野市総合計画基本構想　素案　《概要版》

※全体構成を把握するためのイメージです。

資料１－４

基本構想

1 序論

（1）総合計画の概要

① 総合計画策定の趣旨
② 計画の構成と期間
③ まちの概要
- 地勢　・交通
- 沿革　・文化
- これまでの総合計画

（2）本市を取り巻く社会潮流

① 全国的な人口構造の変化
② 経済状況の動向
③ 安全・安心に対する意識の高まり
④ 高度情報化社会の進展
⑤ ライフスタイルや価値観の変化
⑥ 持続可能な社会の構築

（3）本市の人口動態

現状	総人口の減少は緩やかだが、現役世代と子どもが減り、後期高齢者が大きく増加。自然動態は死亡数の増加により減少傾向。社会動態は、転入の増加により横ばいから微増
推計	2040 年には、年少人口１：生産年齢人口５：老年人口４となる見込

（4）本市の現状と課題

バランスのとれた人口構成	地域社会を支えていく現役世代と子どもの充実が必要
多世代が活躍する地域共生社会	年齢等にかかわらず健やかに暮らせるまちづくりが必要
安全・安心な暮らしの基盤づくり	リスクに対し被害を最小化できるまちづくりが必要
社会変化に対応した地域活力の創出	地域活力や快適な暮らしが維持されるまちづくりが必要
持続可能な地域社会に向けて	自然生活環境や文化などを次世代に引き継いでいく必要
将来に渡り安定した行政運営	社会変化に対応できる安定的な行政運営が必要

2 基本構想

（1）まちの将来像（基本的な理念）

懐かしさと新しさが交わる
みんなのこころが　和（なご）むまち　かたの

- 古くからの伝統文化と緑あふれる自然環境に恵まれ、素朴でゆったりとした風土が育まれてきた本市は、市民憲章に「和（自然と・文化と・人と）」を掲げ、自然との調和を図りながら都市基盤整備を進めることにより、安らぎのある雰囲気はそのままに、新しい出会いや可能性が感じられるまちとして発展してきました。
- まちが成熟するとともに人口が減少局面に入り、少子高齢化、災害や感染症、社会インフラの老朽化などのリスクにより、これまで当たり前であった暮らしの安心・安全を維持していくことが難しい時代に入っています。
- このような背景から、本市がこれまで大切にしてきた、人と自然、古さと新しさ、多様な考え方などが交わり、調和し、認め合う価値観を強みとして、急速に変化していく社会にしなやかに、かつ大胆に対応しながら、みんなが穏やかな暮らしを営み続けることができる“こころのふるさと”としてあり続ける姿を表現しました。

（2）まちづくりの目標と基本姿勢（市のありたい姿・方向性）

まちづくりの目標

1. みんながのびのびと学び、みんなで子どもを育むまち
2. みんなが笑顔にあふれ、お互いに認め支え合うまち
3. みんなが助け合い、安心して住み続けられるまち
4. みんながつどい、交流が生まれるまち
5. みんなが自然や文化を慈しみ、次世代に引き継いでいくまち

基本姿勢

- 持続可能な行政運営
- 多様な主体との協働

（3）人口の将来展望

- 最新の国勢調査を踏まえたシミュレーションの結果、目標年次の人口は７万人。
- 本計画では、地域社会を支える現役世代と子どもの割合を一定規模に保つことをめざす。

（4）都市構造と土地利用（予定）

基本計画

概要
- 「まちづくりの目標」に対する施策体系を明示
- まち・ひと・しごと創生総合戦略、SDGs との関係整理

運営方針
- 行政運営の方針（財政運営、DX、情報発信等）
- 協働の考え方（市民・団体・事業者等）

分野別計画
- 分野別の現状と課題、目指す方向性
- 主な取り組み内容、施策の指標

実施計画

概要
- 基本計画に示した施策の方向性を具体化するための取組み（事業）を整理。
- 各施策と事業との関係を体系的に示すとともに、予算との関係を明示する。基本計画における４年間を通した事業レベルでの目標設定と PDCA。